

阿見町温水プール整備事業について

〔 令和8年8月22日（土） 〕
阿見町教育委員会 生涯学習課

I はじめに — 本日の説明の範囲について

阿見町では、阿見中学校の敷地内に温水プールの整備を進めています。
本日は、この事業の内容について近隣にお住いの皆さまにご説明いたします。

本事業は令和8年5月に基本設計が完了し、現在は実施設計（工事に必要な詳細な設計）を進めている段階です。

- このため、工事の具体的な内容（工事期間、工事車両の経路、騒音・振動対策の詳細など）はまだ確定しておりません。
- 工事に関する具体的なご説明は、実施設計の完了後、工事着手前に改めて説明会を開催してお伝えいたします。

本日まで説明する内容

これまでの経緯

事業の必要性

施設の概要

周辺への影響

事業費と財源

今後の予定

あわせて、皆さまのご意見を伺う機会とさせていただきます。

本日の進行

区 分	内 容	担 当
第1部	阿見町温水プール整備事業について	生涯学習課
第2部	除去土壌の埋立処分について	生活環境課

Ⅱ これまでの経緯

本事業は、令和6年3月策定「阿見町第7次総合計画」第3章第1節5「誰もが楽しむことができるスポーツの推進」に位置づけられた事業です。

時 期	内 容
令和6年度	基本構想の策定
令和7年度	基本計画の策定、基本設計の着手
令和8年5月	基本設計の完了。議会全員協議会へ報告
令和8年7月	実施設計に着手（現在この段階です）
令和8年8月	地元説明会（本日）

住民の皆さまのご意見について

- これまで、町議会議員からの質問や、令和3年度に実施した生涯学習に関するアンケート調査などを通じて、町民の皆さまのご意見を把握してまいりました。
- 今後も、スポーツ団体等へのヒアリング、オープンハウス（パネル展示・対面説明）などにより、引き続きご意見を伺いながら事業を進めてまいります。

※ 事業の内容は、これまで町ホームページ及び議会での報告により公表してまいりました。町ホームページには事業内容のほかQ&Aも掲載しております。

Ⅲ 事業の必要性 — なぜ温水プールを整備するのか

本事業は、次の3つの課題に対応するものです。

	課 題	現 状
①	学校の水泳授業を安定して行うこと	町内10校のうち8校が民間プールを利用して水泳授業を行っています。年間10時間が推奨されるところ、実際には4時間（学年によっては2時間）にとどまっています。民間プールは近隣市町村の利用も増えており、希望する日程の確保が難しくなっています。
②	町民の皆さまの健康づくり	水泳や水中歩行は関節への負担が少なく、子どもから高齢者まで安全に取り組める運動です。令和3年度のアンケートでは、不足しているスポーツ施設の1位が「屋内プール」（34.8%）でした。 県内44市町村のうち30市町村に公設の温水プールが設置されています（令和7年度）。
③	老朽化した学校プールへの対応	学校のプールは建設から41年～56年以上が経過しています。すべて建て替える場合、令和30年までに約22.7億円を超える費用が必要と見込まれます。

温水プールを整備することで、これらの課題の解消を図ります

Ⅲ 事業の必要性 — 施設の基本方針



子ども達の学習拠点の整備

町内の学校の水泳授業を受け入れる施設とします。



多様な世代が集うスポーツ振興・ 健康増進拠点の整備

多様な世代が集い、幅広い世代が運動・健康づくりに利用できる環境を整備します。

※ 画像はイメージです。

IV 施設の概要

項 目	内 容
施設名称	阿見町温水プール（仮称）
所在地	阿見町中央一丁目2番（阿見中学校敷地内）
構造・規模	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上1階
延床面積	1,972㎡
敷地面積	9,932.05㎡
施設区分	内 容
プール	25m×7レーン（うち低床レーン2レーン）、採暖室、入水前シャワー、児童生徒更衣室、一般更衣室、バリアフリー更衣室、談話室。 入水スロープにより、車いすをご利用の方、高齢者、幼児も安全に入水できます。
温浴施設	浴室・脱衣所。男女各10人程度が入浴できる浴槽を設けます。
トレーニング室	約94.5㎡。指定管理者がジム・ダンススクール等の自主事業を運営します。
駐車場・外構	駐車場80台、優先駐車場4台、バス駐車場4台。 ロータリー乗降場および緊急車両の動線を確保します。

IV 施設の概要 — 1 配置計画



配置計画の考え方

- 建物は敷地の東側に配置し、大通りからの視認性を確保します。
- 一帯は防災公園として位置づけ、交流広場や園路を設け、施設と公園を結びます。
- 阿見中学校、阿見小学校からの徒歩での動線に配慮します。
- 歩行者と車両を分離した駐車場計画とし、送迎バス4台が駐車でき、回転場で乗降できるようにします。
- 車両が侵入しない交流広場では、児童生徒の点呼等の場としても活用し、安全に授業を行える計画とします。

※ 基本設計段階の計画であり、実施設計において変更となる場合があります。

IV



平面計画の考え方

- 明快にエリア分けされたゾーニングにより、誰もが分かりやすい計画とします。
- 児童生徒専用の入口を設け、一般利用の方と動線が交差しない施設構成とします。
- 児童生徒玄関からプール室までをひとつながりとし、スムーズな授業を行える計画とします。
- 学校の授業時間帯は、児童生徒のエリア（更衣室・プール・談話室）と一般利用の方のエリアとの間にセキュリティラインを設け、往来ができないようにして安全を確保します。
- 水泳授業を行っている時間帯も、温浴施設等は一般の方にご利用いただける計画としています。
- 見学者は談話室で、水泳授業の見学や自主学習を行うことができます。

※ 基本設計段階の計画であり、実施設計において変更となる場合があります。

IV 施設の概要 — 3 完成イメージ



※ 基本設計段階のイメージであり、今後変更となる場合があります。

本施設は、地域の防災力の強化にも資する公共施設として計画しています。

1

給水拠点機能

大規模災害時に、プールの水を生活用水として活用します。

2

避難所との連携

役場（災害対策本部）、阿見中学校・阿見小学校（指定避難所）と近接しており、一体的な運用が可能です。温浴施設は避難された方の衛生確保に活用できます。

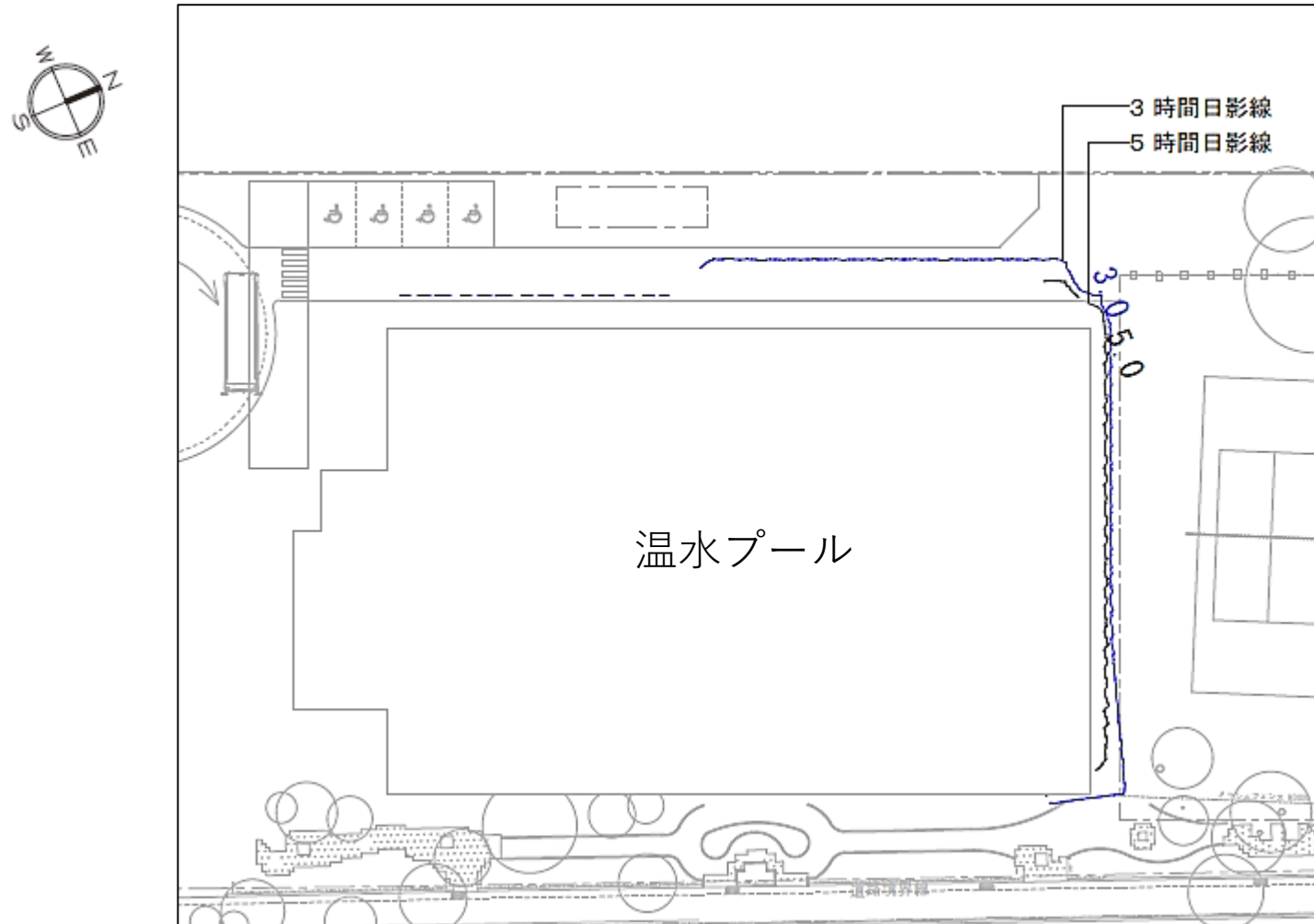
3

防災公園との一体整備

阿見中学校の既存プール解体跡地、児童公園・児童館跡地、中学校テニスコートを含む区域を、防災公園として段階的に整備します。

V 周辺への影響について — 1 日影の影響

施設の完成後に、周辺の皆さまの生活環境へどのような影響があるかについて、実施設計において検討しております。



※ 日影図は、建物によって生じる影の範囲を時間ごとに示したものです。

V 周辺への影響について — 2 雨水の処理

施設の完成後に、周辺の皆さまの生活環境へどのような影響があるかについて、実施設計において検討しております。



雨水については、貯留マスに貯めて、温水プールの敷地内で浸透させます。（水色の四角部分）
急激に雨が降った場合のオーバーフロー分のみ既存側溝に排水する計画です。

3 設備機器による騒音の影響

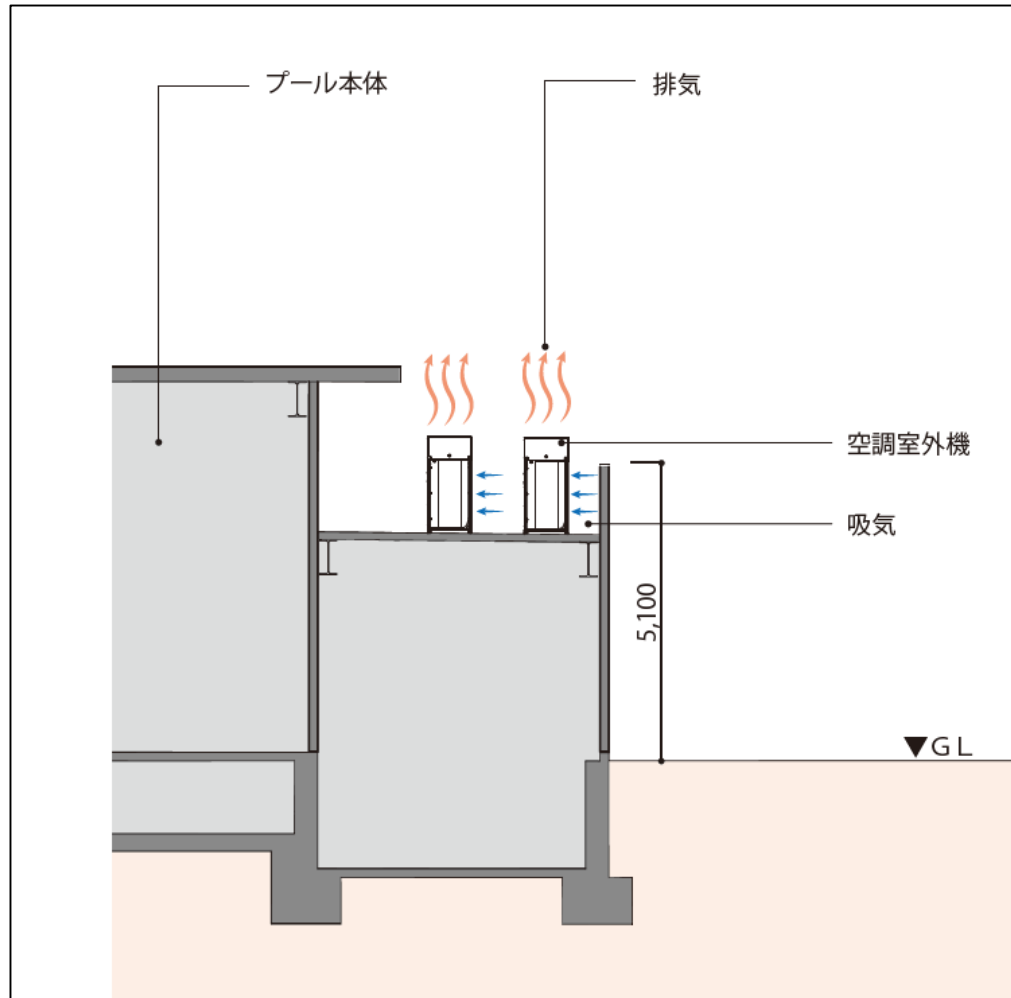
屋外に設置する空調・給湯等の機器から生じる音について、敷地境界における騒音値を検証します。

項 目	内 容
検証の内容	敷地境界線上における騒音値が、規制値を下回ることを確認します。
対 策	屋外機置場の配置、防音パネルの設置、消音装置の設置等を検討します。
現在の状況	実施設計において、設備機器による騒音の影響、対策の有無について検討しています。

検証結果につきましては、実施設計の進捗に応じて改めてお示しいたします。

4 設備機器による排熱の影響

屋外機からの排熱により、周辺の皆さまの生活環境へ影響しないよう検討しています。



V 周辺への影響について — 5 交通・駐車場



項 目	内 容
駐車場	駐車場80台、優先駐車場4台、バス駐車場4台を敷地内に確保し路上駐車が生じないようにします。 (算出根拠) 1日あたり 想定来場台数285台÷駐車場の回転回数6回 = 1日の平均的な利用台数47.5台 1日の平均的な利用台数47.5台+ピーク時の上振れ 20~30台=必要台数70~80台程度
歩車分離	歩行者と車両の動線を分離した計画とします。
送迎バス	送迎バス4台が並列できる駐車場を設け、ロータリー乗降場を確保します。
通学路への配慮	阿見中学校・阿見小学校が隣接・近接することから、児童生徒の通学動線に配慮した計画とします。

VI 事業費と財源 — 1 基本設計における事業費

基本設計の完了により、事業費を積算しました。

基本設計時点の事業費

25.53

億円

費 目	金 額	主な内容
設計・工事監理費	約1.43億円	基本設計・実施設計・工事監理
建築工事費	約21.60億円	本体工事（プール・温浴・トレーニング室等）
外構工事費	約2.17億円	駐車場・防災公園・外構整備（約9,900㎡）
備品費	約0.33億円	備付け備品
計	約25.53億円	—

今後のコスト管理について

- 実施設計においては、VE（バリューエンジニアリング）という手法を用いて、コストの精査を行います。
- VEは、施設に必要な機能を維持したうえで、より経済的な材料・工法・仕様に見直す手法です。施設の水準や、これまでご説明してきた内容を引き下げるものではありません。

工事を発注する令和9年度までの建設物価の上昇分をVEによって吸収し、**工事発注時点で26億円台に収めることを目標としています。**

※ 事業費は今後の物価動向や実施設計の内容により変動する場合があります。

VI 事業費と財源 — 2 財源と町の負担

国の交付金と、地方交付税措置のある起債を最大限活用し、町の実質的な負担を抑制します。

財 源	事業費26億円の場合
防災・安全交付金（国費）	13億円
公共事業等債（交付税措置 約20%）	11.7億円
一般財源	1.3億円

町の実質負担額（総額）

約12.6億円

（起債償還額を含み、交付税措置を控除後）

この総額は一度に支出するものではありません

起債（約11.7億円）の償還は最長で25年間に分割されるため、町の負担は各年度に平準化されます。

- ※ 起債の利率1.5%、償還期間25年（元利均等・据置なし）で算出しています。償還期間の短縮や、金利が上昇した場合、償還額が増加する可能性があります。
- ※ 国費は、国の予算状況・採択結果により変動する可能性があります。
- ※ さらに有利な財政措置がないか調査検討を進めています。

開館後は、施設を安全・快適に維持し、多くの方にご利用いただくための運営を行います。
町では、次の考え方で運営に取り組めます。

1

指定管理者制度の活用

民間事業者のノウハウを活かした運営により、質の高いサービスと効率的な運営を両立します。トレーニング室やスクール事業などの自主事業を通じて収益を確保し、町の負担軽減につなげます。

2

省エネ設計による コスト抑制

ZEB Ready性能を目指した省エネ設計と、電気・都市ガスの適切な組み合わせにより、光熱水費を抑えた運営を目指します。

3

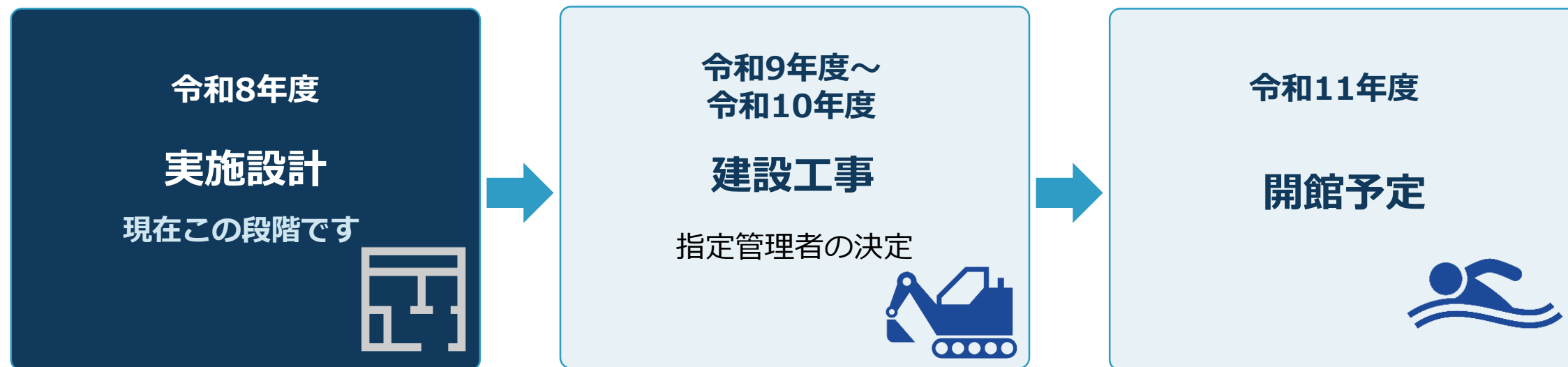
多くの方に 利用される施設づくり

学校の水泳授業に加え、幅広い世代の一般利用、健康づくり教室等、様々な角度から運動・健康づくりに利用できる環境を整え、施設の稼働を高めます。

年間の運営費について

年間の運営費は、他自治体の類似施設の事例を参考に約5千万円～1億円程度を見込んでいます（先進自治体事例による参考値）。

現在、施設の内容・設備仕様を踏まえて積算を進めており、今後、サウンディング（市場対話）調査を経て指定管理者制度を設計し、議会説明を経て決定していきます。



- 実施設計は令和9年3月末に完了する予定です。

工事場所・工程、工事車両の経路、騒音・振動対策などの具体的な内容は、実施設計の完了後に開催する説明会でご説明いたします。

本事業について、随時ご意見・ご質問をお受けしています。

- 1 町ホームページの問い合わせフォーム、またはお電話
- 2 オープンハウスを公民館等で実施予定です（別途町ホームページ等でお知らせします。）

お問い合わせ先

阿見町教育委員会 生涯学習課

電話 〔029-888-2526〕

問い合わせフォーム

